

平成 25 年度教職大学院派遣研修研究報告書

派遣者番号	管 25K07	氏 名	西原 英治
研究主題 —副主題—	知的障害特別支援学校高等部における社会参画の視点に立った教科学習（社会）の在り方について — 教科指導ミニマム（社会）の作成と単元のユニット化による教科学習の充実 —		
所属校	都立羽村特別支援学校	派遣先	帝京大学教職大学院

項 目	内 容
I 研究の目的	<p>「東京都特別支援教育推進計画（第三次）」においても知的障害の教育課程の充実、教科等の指導の充実が課題として挙げられるなど、教科指導に対する生徒・保護者のニーズは高まってきている。</p> <p>高等部の生徒は卒業後、一部生徒を除き、基本的に一般企業や福祉施設に就労する。そのため作業学習など「働く力」の習得に教育活動の重点が置かれており、教科指導の質的向上に関する研究・研修は優先順位が低い傾向にある。生徒も過去の挫折経験から教科学習を敬遠する傾向がある。特に「社会」は暗記教科のように誤解され苦手意識が強い生徒が多い。社会参画に必要な力を習得するために果たすべき「社会」の役割は大きいと考えるが、具体的な学習内容が不明確であるなど、その役割を十分に果たしているとは言い難い。</p> <p>その背景には系統的・具体的な年間指導計画の不備、標準的な教科書の不在、学習教材の蓄積のなさ、生徒の実態の多様性など、知的障害教育校ならではの課題が挙げられる。特に教員配置の関係から社会科免許所有者以外の教員が「社会」を担当せざるを得ない状況においては、単元設定や教材研究などで教員に過重な負担を強いると同時に、授業内容の質的向上をも阻害している。</p> <p>上記の点から、教科の質的向上を図るために授業計画の基本となる重要単元と具体的な学習項目の一覧表及び使用教材を作成し、社会科教員以外による検証授業を通してその効果を検討することを目的として研究を行った。</p>
II 研究の方法	<p>特別支援学校（知的障害）高等部をはじめ、小学校や中学校など他校種の「学数指導要領」、先行研究における「学習内容表」及び「社会」の年間指導計画などを参考にしながら、学習すべき内容を「重要単元」として整理した。</p> <p>また社会生活に必要な知識を習得させる視点から、各「重要単元」における「具体的な学習項目」をそれぞれ設定し、一覧表として完成させた。障害の程度に応じて学習グループ毎に学習すべき内容が取捨選択できるよう、参考となる目安を設けた。</p> <p>教科学習の充実を図るにあたり、単に「重要単元」を考えるだけでなく、具体的な教科指導の在り方についても考察する必要があると考えた。そこで各「重要単元」の指導案（略案）やスライド教材などを学習グループ毎に用意した「単元パッケージ」の概念を取り入れた。また、有効性を考察するため、「選挙」に関する「単元パッケージ」を用意し、検証授業を行った。その際、生徒対象の授業アンケートと、授業者に対する聞き取りを実施した。その結果から、スライド教材の難易度調整を行うなど、より効果的なパッケージとなるようにその都度改良を行った。</p>

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>「単元パッケージ」では視覚的支援と、他の学習グループに向けた改良を効率よく行う観点、教材を蓄積し共有化する観点から、スライド教材を中心教材として作成、使用した。また、授業に先立ち、略案とスライドを使って授業者と打合せを行った。</p> <p>授業やアンケートにおける生徒の反応、学習内容の定着率を考慮し、教材の難易度調整を行った。スライド前半に各グループで共通に学習する基本的内容を配置し、後半部分に各グループにおける生徒の実態に合った難易度の課題を配置することで、生徒一人一人が学習内容を深められるよう配慮した。</p> <p>授業アンケートでは、スライド教材は「分かりやすい」とする生徒が 74% なのに対し、授業内容が「よく分かった」生徒は 54%であった。プリント教材の工夫などを通して学習内容の定着を図り、自分から復習しようとする意識を育てる取り組みが必要と考える。また「どの授業が楽しいか」ではスライド教材を使用した授業が 33%と最下位だったが、「分かりやすいか」では 46%と最も高く、スライド教材を使用した授業は理解を促す上で有効と考えられる。</p> <p>授業者からは「スライドに沿って授業を展開するため進めやすい反面、時間配分が難しい。細かな部分の説明がうまくできない。」との意見が出た。スライドの構成を熟知しておくと同時に、授業者が自ら学び、教材理解を深めることが円滑な授業進行には重要であることが分かる。</p> <p>教材理解を深めるための補助的な支援方法としてスライド内の「ノート」に授業プランや留意事項を記載するなどの工夫を行った。しかし、授業テンポを損なうなど、授業中のノートの活用は難しかった。そこでアニメーション用の絵コンテから着想を得て、スライドの画面表示を基準として教員・生徒の動きを整理した「授業コンテ」を作成・試用した。授業展開を把握しやすく、授業者の反応は良好であった。効果については更に検証する必要があるが、共有したスライド教材への教材理解を深める手だての一つとして提案したい。</p>
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>検証授業終了後も「単元パッケージと具体的な学習項目」の一覧表から学習項目を選択し学習計画を立てられたり、軽度用に作成したスライド教材を元に中度用のプリント教材が作成されたりするなど、本研究の成果が他の教員に活用される場面が見られた。具体的な学習項目と単元パッケージを整備していくことが教科学習の質的向上に貢献する可能性は極めて高いと考える。その反面、スライド教材の作成・充実、サーバーへの蓄積など、取り組むべき課題はまだ多い。同時にスライド教材をより効果的に活用し、質の高い授業を行うためには、特別支援学校教員の教科指導技術の向上が必要不可欠であることも実感した。今後、教科指導に関する研修を充実させることも重要と考える。</p>